

さくらだより

vol. 49

2025年1月20日発行



代表取締役社長

高橋 和義

あけましておめでとうございます。昨年は新しく、株式会社ハイパーラーニングが子会社に加まりました。そのほかにも新たな試みが多い年だったと感じています。新年を迎えるにあたって、昨年の振り返りとともに今年の展望についてお伝えしたいと思えます。

成長を感じた 2024年

昨年の売り上げについては、じわじわと伸びてきている印象でした。実質的な数字にすると16億円程度ではないかと思えます。

この成果を出せたのは、ユニーと株式会社三和鋼産の存在が大きかったと言えるでしょう。昨年からユニーと三和鋼産、そしてさくら株式会社との3社混成メンバーで現場を進めるようになり、各社とも大きな力になってくれました。

社会貢献と 業界のイメージアップ

子どもを対象とした活動としては、社会貢献の一環となるイベントを引き続き実施していくつもりです。昨年10月27日には、「おやこ未来フェスタ」を開催。アスリートのトークショーや職業体験、マルシェなどの催しを行いました。同様のイベントを、今年の3月30日にも予定しています。

ほかには、ショッピングモールなどでの配管施工体験も随時開催中です。参加した子どもたちが大喜びで帰っていく様子を見ると、心から嬉しくなります。今後は工場見学なども始めたいと考えています。こうした活動を通して会社の認知を広げるとともに、建



▲さくら株式会社の職業体験

ただ、グループ会社が増えたことで、私個人では手が届かない部分が増えてきたのも事実です。そこで昨年は、私の業務をほかの社員に割り振るように推進。社員数も増えてきたため、人事部や企画部などの部署を新設して組織編成に努めました。その結果、少しずつ会社が私の手を離れて動き出しているように感じます。

一方で、子会社との間に文化の違いが見えてきました。今まで別々に仕事をしてきた会社同士ですから、考え方が異なるのは当然です。しかし、これからは1つになって進んでいかなければなりません。まずは、我々の企業理念でもある「異体同心」について理解を深めていただきたいと思います。同じ方向を向く必要はありますが、皆さんの意見を受け付けないというわけではありません。毎月部長会を開いて話を聞く時間を設けていますので、仕事への思いや改善点をどんどんぶつけてください。

未来に向かって、 ともに成長を

設業界全体のイメージアップが図れば幸いです。

最後に皆さんにお伝えしたいのは、ミスを恐れず挑戦してほしいということです。最初からうまくできる人などいません。間違いを繰り返して力がついていくのですから、まずは何にでもチャレンジしてみてください。一番の失敗とは、挑戦して失敗することではなく、失敗を恐れて何もしないこと。何かあったときは先輩が責任を持ちますから、心配は無用です。

さくらグループはこれからも売り上げ20億円、そして50億円を目指して走り続けていきます。そのためには、皆さんの力が不可欠。今年も力を合わせ、ともに進んでいきましょう！

2025年に抱く ビジョン



2025年は、「継続」プラス「変革」の年になるでしょう。長年抱えている新人教育などの課題について、プログラム化やマニュアル化を進めていかなければならないと感じています。

また、1月に新工場の引き渡しがあるため、これまで外注に出していた作業も、社内で行えるようになる部分が多くなります。現場だけではなく、製造物で得られる売り上げも伸びていくはず。目標は売り上げ10パーセントアップ。皆さんのご協力が必要になるため、ぜひ力を貸してください。

教育事業の 本格化を推進

そして今年、ハイパーラーニングとの取り組みを進めていく考えです。今回ハイパーラーニングを傘下に入れたのは、社員や子どもたちに向けて「非認知能力」の教育を行いたいと思ったのがきっかけでした。学校で学ぶ国語や算数にあたる「認知能力」に対し、意欲や協調性などの数値では測れない能力を「非認知能力」と呼びます。この「非認知能力」を伸ばす教育事業を行うため、学習塾を運営するハイパーラーニングの力を借りようと考えたのです。

今年「非認知能力」の教育体制を整えるため、専門機関で研究されているカリキュラムを導入する予定。従前から準備していた起業家育成プログラム、「CEOキッズアカデミー」事業についても、ハイパーラーニングで取り組んでいく見込みです。2025年は大きな変革の年になるでしょう。

ユニー&三和鋼産社員に聞いた / 会社としてみる2024年の変化と2025年の展望

2023年～2024年は、ユニーと三和鋼産がさくら株式会社に仲間入りをした年。大きな転換期になったこの年がどのような1年だったのか、小座間さんと佐藤さんにお聞きしました。2025年もさくらグループとして、さらなる飛躍の1年にしていきたいと思います！



ユニー
工事課 課長
おざま たくや
小座間 拓也さん

2024年の振り返り

グループ化を活かし 現場の効率化を図った1年

2023年にM&Aが実施され、私がさくらからユニーに出向したのが2024年4月。その後、転籍し、正式にユニーの社員に。現在は、以前さくらで行っていた現場業務に加え、人員配置や見積もりなど、管理に関わる業務も担うようになりました。両社はまだグループ会社になったばかり。現場での連携や、技術や知識の平均化を念頭に置き、まずは人員の確保を図りました。道具や資材など技術面での情報を共有しつつ、グループだからこそ可能になった現場の効率化に取り組んだ1年だったように思います。

2025年に注力したいこと

技術や知識向上のために交流する

ユニーとしては、これまでの主な業務であった据え付けだけではなく、配管工事の技術力アップを目指したいと考えています。配管に関しては、さくらがこれまでに培ってきたノウハウがあります。たとえばユニーとさくら、共同で担う現場を増やすなどして、配管に関して個々の職人の技術を高めていけるのではないのでしょうか。そのために、2025年はユニーとさくらの交流に力を入れたいと思っています。

今後の展望

下の世代が働きやすい環境をつくりたい

少しずつ改善されてきているとは思いますが、まだまだトップダウンに偏っているように感じています。ここをボトムアップの体制に変えていくことが、当面の目標です。新しく入った方が働きやすく、声を上げやすくなれば、業界で叫ばれているような離職の問題も回避できるはずだと思います。厳しさだけでなく、ものづくりの楽しさも同時に伝えていくことで、初めて若い人材を育てていけるのではないかと考えています。

社員の皆様へ メッセージ

事務や工場の方など、さくらグループの多くの方に助けていただいた1年でした。本当にありがとうございます。今後も一緒に頑張って、グループを盛り上げていきたいと思います。



三和鋼産
さとう だいすけ
佐藤 大祐さん

2024年の振り返り

会社の一員としての意識が高まった1年

会社設立から1年ほど経ち、皆が「自分の会社」という意識を持ち始めてきたと思います。以前は自分の担当業務のみにフォーカスしがちでしたが、誰かが休んだ際に互いをサポートするなど、前向きな姿勢が見られるようになりました。また、個々の成長につながる業務もありました。4～6月に携わった火力発電プラントで、当社から6名、協力会社を含めると13名ほどが参加しました。ですが工事の終盤にかけて遅れが発生してしまったことがあり、次から次へと作業に取り組まなければならない、連日のように残業が深夜にまで及ぶほどに。宿泊ではなく通勤だったため、本当に大変でした。その一方で、業務を通じて個々のできることを再確認し、次の仕事に活かすスキルを得られるような現場でもありました。今後の課題は、仕事と会社に対する意識を一人ひとりがさらに高めること。大怪我こそないものの、ヒヤリ・ハットのようなミスもあったため、初心を忘れずしっかりと仕事に取り組んでほしいと思います。

2025年に注力したいこと

東北で一番有名な 会社にする

- 安全第一で大きな怪我をしない、そして怪我人を出さないこと
- 地域の人に役立つ仕事をする
- さくらグループの一員として、グループ全体の意識を高めること

2025年を通してこの3点に注力し、東北で最も有名な会社にするのが目標です。

また、個人的にはお互いの能力を認め合い、笑顔で一緒に成長していけるような環境作りを目指します！

今後の展望

会社の名前を広めていきたい

会社の名前を広めていきたいと考えています。そのために、設備関係や機械関係に力を入れる予定です。仕事自体もプラントや設備にシフトチェンジしたいため、取引先の方々と会話の中で、少しずつアピールすることを続けていかなければと感じています。



社員の皆様へ メッセージ

しっかりと自分を見つめ直し、皆が互いに良くなるためにはどうすべきかを考えて、会社を大きくしていければと思います。皆が一丸となって同じゴールに向かって頑張りましょう！